

令和四年 隱岐後鳥羽院和歌大賞

歌題 Ⅱ 松 入賞歌

「古事記」一三〇〇年記念大賞

秋深み鳴く鈴虫の声たえて夜ごとに澄める松風のおと

兵庫県 岡田 優志

隱岐後鳥羽院和歌大賞

夕月夜みやこ恋しき琴の音に涼しくかよふ浦の松風

埼玉県 関口 祐未

選者賞 冷泉貴実子選

春風に千代の初音の聞こゆれば常盤の松も緑まさらむ

京都府 吉尾 薫

公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫賞

鳴く鹿の音に思ひ寝の夢さめて枕むなしき松風の音

東京都 佐合井 昇

水無瀬神宮賞

磯馴松垂るるにまかす小枝より浦風さそふ琴の音聞こゆ

東京都 中嶋 康夫

出雲大社賞

色も香も散るを定めの花よそに松の翠は永久に照り映ゆ

大阪府 足立 慶子

大阪天満宮賞

霜雪をいくたびおけど変わらざる常盤の松の緑美し

兵庫県 吉本 朱見

住吉大社賞

深山路の赤松むらに霧たちて鹿鳴く声の遠き夕暮れ

熊本県 吉野 佳子

城南宮鳥羽殿賞

二葉より朽ちぬ契りに千代を経ていまひとしほの和歌の浦松

広島県 河上 律子

海士町長賞

松風の音もこそすれ上皇のみこゑとおぼし崎湊ゆく

広島県 折口 浩三

隠岐ユネスコ世界ジオパーク賞

常磐なる千代の松影月射して神さび社伊勢の地に立つ

東京都 徳植 弘幸

長崎県五島市長賞

雪おけば十重に二十重に打ち寄せる波とも見ゆる浜の松が枝

宮城県 角田 正雄

島根県雲南市教育長賞

わがやどにきみまつのかきの木のまよりさしいづるつきのかなしかりけり

東京都 松村 太樹

島根県益田市市長賞

大なるに数多のまれて伏せしとも雄々しくたちたる一本の松

東京都 井上喜音子

令和四年隱岐後鳥羽院和歌大賞

歌題Ⅱ松

入選

湧泉の傍に松の生ひ立ちて木陰は深く枝葉の繁る

広島県 平越 玄頌

小夜更けに苦屋訪ふものありて人かと問へは松風の音

兵庫県 藤原 紘一

十年前父の植ゑたる松の木は叢を越えて朝日に光る

岐阜県 西尾 嘉浩

羽衣の松に寄りくる春の波遠くに淡く昼の月あり

千葉県 宇野とし子

若松の朝日に栄える趣きは漲る息吹末広がり

滋賀県 佐々木弘和

ときわなる松の梢を吹きぬける風のひひきも万代のこゑ

兵庫県 林田 幸子

松風のたゆたひ吹ける船宿の引き戸開くれば月影の澄む

鹿児島県 田中 司郎

街道の松の並木の下を行くあまたの人のそれぞれの目的

愛知県 星原 風堂

うき寝する須磨の浦辺に聞こゆなり笛の音はこぶ峯の松風

兵庫県 齋藤 英昭

海松布かる海士の小舟をながむれば里すむ君をおもふ夕暮

三重県 伊藤 理恵

壇ノ浦浪に漂ふ旗あはれ平家の松の今枯れむとす

愛知県 近藤 圭介

友と会ひ天の橋立来てみればむかしを忍ふ松風の音

滋賀県

松田 輝子

人も木も色は変われど常盤なる松の緑は色も変わらじ

神奈川県

横山 隆行

黒松のおぐらき林ゆき行けばかすかに春の潮の音聞く

福岡県

新倉 正成

夜のしじま吹く松風は清々しはるか昔に思ひをはせる

東京都

斉藤 典子

遙かなる都偲ばす上皇を乗せて行きませ浜の松風

熊本県

葉山 高弘

かしこしや千歳の松にそよと吹く気高きかおり宮居をつつむ

宮崎県

熱田 民恵

はるかすみこめたる松の岩根にも呼子鳥なくこゑしみわたる

神奈川県

橋本 十和

果てしなき海原染めて暮れる隠岐雲居の空に結ふ松か枝

滋賀県

山崎 昇

松風はわだつみの神の底ごもる声もろ共に浦辺を通う

山口県

瀬戸内 光

幹は地を這いて広がり枝はそびゆ「三百年の松」龍を思わす

東京都

松坂ようこ

夫愛でし五葉の松を見やるればかそけき風にゆるゝ面影

大阪府

武林 妙子

松風や昔人の嘆きのせ涼しかりけり隠岐の沖ゆく

福岡県

伊藤 敏

君をまつ常盤の枝にかかりける天の羽衣しはしととめむ

東京都

内田 玉世

朝あけに雪しつりする音澄みて宮路に松の小枝輝く

茨城県

宮本 保

打ち晴れて屋那の白浜松原の沖より寄せる波音激し

三重県 奥山 功

お手植ゑの松の年月とこしへに言の葉となり光となれり

大阪府 河邊 幸子

ちはやふる八百歳祝ふ隠岐の神松も花咲く千代の景色を

京都府 臼井香代子

野分だつ松風騒ぎ木の間より漏り出づる月の影は乱るる

岩手県 小野寺洋一

風高き松の木陰をあふぎ見ゆ目には涼しき夏の白雲

埼玉県 木下 常世

ふるさとに父亡く母亡く兄亡くも庭の大松太き根を張る

香川県 寒川 靖子

霞立つ峯の松むらめもはるに常盤の緑なほまさりけり

千葉県 宿谷 睦夫

十九年さても慣れざる波の音にうらやましくも松の磯馴るる

東京都 岡崎 志昂

白波の寄せる松原風吹けよ天津乙女か歌の聞こえる

東京都 阿久津ひろみ

代を経ても帝の御船を待つと言ふ語り継がるゝ綱かけの松

島根県隠岐郡 谷村 美都子

たらちねの母の呼ぶがに松風の波の聲々わたつみの詩

大分県 原 比呂子

羽衣を風の使ひが縫ひ納め真砂に落とすからまつ針

青森県 木立 徹

山里の庵の軒端の姫小松白雪置きて松に花咲く

千葉県 宿谷 政枝

朝靄に漕きゆく舟の行方には松の煙にかくる島々

兵庫県 濱崎 要子

難波なる高師の浦にしらしらと月影宿す岸の姫松

大阪府

石川 知子

ひさかたの光をまとふ老松の千代を寿きほとときす鳴く

兵庫県

太田 悦子

都への潮路はるけし大君の舟もやひたる綱掛けの松

滋賀県

船岡 房公

いにしえの大宮人を懐かしみ明石の浦の松風の音

大阪府

岡崎 文子

都より遠く離れていくとせか哀しく響く松かぜの音

島根県隠岐郡

永海 尚二

立待の月に松風むすふ雁琴柱を立てて浦鳴き渡る

兵庫県

西村 資子

隠岐島の松の緑の色深く荒ぶ波風に海鳥の舞ふ

京都府

濱岡 学

天はれて月影しるき陵を見守る松に渡る涼風

東京都

古賀のり子

常磐なる黒松か枝に渡る風島根うるはし隠岐の島山

島根県

大谷香代子

夕立のすぎしさ庭の松の葉にひかり放ちて宿る白露

島根県

須田 芳子

真砂路を君とひくれば須磨の浦の月にしるけき磯馴松かな

大阪府

藤井 弥生

冬枯れの芝生の上に並び立つお城の松の青々として

東京都

高橋菜穂子

みやまには夕立すらしむらくもをへだててかよふ峰の松風

長野県

堀川洸太郎

常盤なる松の緑の万代に敷島の道世々さかゆかむ

京都府

小林 尚子

初子の日焼火の山に小松引き神を招きて弥栄願う

大阪府 縁糸まどか

君ならで誰とながめむ高砂の相生の松の常磐の緑

大阪府 柁木 理花

海士に生ふ松の緑の色さえて久しく寄せる四方の浦風

東京都 高嶋 韶光

常盤なる松か枝繁き峯高く湧く白雲に松風そ吹く

長崎県 芦塚 寿重

来ぬ人をまつ風わたる秋の夜はひとしほ長き時過ごしけり

神奈川県 小林 健二

聞かせばや千歳の冬もよそにして昔ながらの庭の松風

群馬県 坂本 柊哉

いにしへの新島守を恋ふとてやおきの浦路にかよふ松風

東京都 梶間 和歌